

## A58a 日本変光星観測者連盟 (VSOLJ) における CCD 観測の現状

清田誠一郎 (VSOLJ)

日本変光星観測者連盟 (VSOLJ、代表西城恵一) は、古畑正明の呼びかけで、日本のアマチュアの変光星観測の成果を海外にも発信する目的で、日本天文研究会、東亜天文学会の変光星関連部門と日本変光星研究会を横断する組織として設立された。構成する個々の団体の活動は従来通り独立して行われており、VSOLJ としては、英文の Variable Star Bulletin の発行、観測結果のデータベースの公開、変光星観測者会議の開催を主な活動としている。情報発信の際に VSOLJ の名を冠して行われることが多いため、海外からは、日本のアマチュア変光星観測者を代表する団体と認識されつつある。そこで、日本のアマチュア変光星観測者の現況を VSOLJ の例で紹介する。

昨年、VSOLJ の mailing list や各団体を通して、観測を報告を寄せられた方の数は、80 名程度で、これより幾分多い数の方が、現在、積極的に変光星に関心を持っている日本のアマチュア天文家の数と思われる。ほとんどが眼視による目測観測で、これまでに 100 年近くの蓄積があり、その観測結果は、VSOLJ database として公開されている。眼視観測に加えて、1990 年代前半から、CCD を用いた測光観測を行うアマチュアが表れだした。昨年の報告中では、6 名+1 チームである。これらの中には、眼視観測と CCD 観測の両方をされている方ももっぱら CCD 観測の方がいる。また、フォトダイオードを用いた自作測光器を使って観測をされている方が 1 名いる。望遠鏡の口径は、30-20cm で、使用 CCD カメラは、SBIG、Apogee、Mutoh、Meade 社製と多岐にわたっている。このうち、Meade の CCD は、冷却機構やシャッターが無い等、簡便な機種であるが、価格が安い。この機種による観測成果が上がる様になったことは、今後の CCD 観測の普及にとって、好事例と思われる。また、測光用のフィルターを使って観測を行っている方が多いのは、日本の観測者の特徴だと思われる。特に、蜂須泉・加藤万理子の呼びかけで、新星の stromgren y バンド測光用のフィルターが配られ使われているのも特徴である。観測対象は、VSOLJ の ML での観測の呼びかけが行われた影響で、わい新星や食変光星が多い。また、日本人捜索者による新星発見が続いていることから新星の観測も多い。これらの観測者はもっぱら変光星の観測を行っており、彗星や小惑星、系外惑星の観測者との積極的な交流は多くない。